ワークロードの管理

Active IQ Unified Manager

NetApp
November 13, 2026

This PDF was generated from https://docs.netapp.com/ja-jp/active-iq-unified-manager-918/api-automation/concept_view_workloads.html on November 13, 2026. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

ワークロードの管理 1
Active IQ Unified Manager でAPIを使用してストレージワークロードを表示する 1
ストレージ ワークロードの表示 1
ストレージ ワークロードの概要の表示 1
Active IQ Unified Manager で API を使用してアクセスエンドポイントを管理する 1
アクセス エンドポイントの表示 2
アクセス エンドポイントの追加 2
アクセス エンドポイントの削除 2
アクセス エンドポイントの変更 2
Active IQ Unified Manager で API を使用して Active Directory マッピングを管理する 3
Active Directoryマッピングの表示 3
Active Directoryマッピングの追加 3
Active IQ Unified Manager でAPIを使用してファイル共有を管理する 3
ファイル共有の表示 4
ファイル共有の追加 4
ファイル共有の削除 4
ファイル共有の変更 4
Active IQ Unified Manager でAPIを使用してLUNを管理する 5
LUNの表示 5
LUNの追加 5
LUNの削除 6
LUNの変更 6
Active IQ Unified Manager で API を使用してパフォーマンスサービスレベルを管理する 6
パフォーマンス サービス レベルの表示 6
パフォーマンス サービス レベルの追加 7
パフォーマンス サービス レベルの削除 7
パフォーマンス サービス レベルの変更 7
パフォーマンスサービスレベルに基づいたアグリゲートの機能を表示する 8
Active IQ Unified Manager で API を使用してストレージ効率化ポリシーを管理する 8
ストレージ効率化ポリシーの表示 8
ストレージ効率化ポリシーの追加 9
ストレージ効率化ポリシーの削除 9
ストレージ効率化ポリシーの変更 9

ワークロードの管理

Active IQ Unified Manager でAPIを使用してストレージワークロードを表示する

ここに記載されている API を使用すると、データセンター内のすべての ONTAP クラスターのストレージワークロードの統合リストを表示できます。また、API は、Active IQ Unified Manager 環境でプロビジョニングされたストレージワークロードの数、およびその容量とパフォーマンス（IOPS）の統計情報の概要ビューも提供します。

ストレージ ワークロードの表示

以下の方法を使用すると、データセンター内のすべてのクラスターにおけるすべてのストレージワークロードを表示できます。特定の列に基づいて応答をフィルタリングする方法については、Unified Managerインスタンスで利用できるAPIリファレンスドキュメントを参照してください。

カテゴリ	HTTP動詞	パス
storage-provider	GET	`/storage-provider/workloads`

ストレージ ワークロードの概要の表示

以下の方法を使用すると、各パフォーマンスサービスレベルによって管理されるストレージワークロードの使用容量、利用可能容量、使用IOPS、利用可能IOPS、およびストレージワークロードの数を評価できます。表示されるストレージワークロードは、任意のLUN、NFSファイル共有、またはCIFS共有に適用できます。APIは、ストレージワークロードの概要、Unified Managerによってプロビジョニングされたストレージワークロードの概要、データセンターの概要、割り当てられたパフォーマンスサービスレベルの観点から、データセンター内の合計、使用済み、および利用可能なスペースとIOPSの概要を提供します。このAPIへの応答として受信した情報は、Unified ManagerのUIにあるダッシュボードにデータを入力するために使用されます。

カテゴリ	HTTP動詞	パス
storage-provider	GET	`/storage-provider/workloads-summary`

Active IQ Unified Manager で API を使用してアクセスエンドポイントを管理する

Storage Virtual Machine（SVM）、LUN、およびファイル共有のプロビジョニングに必要な、アクセス エンドポイントまたは論理インターフェイス（LIF）を作成する必要があります。Active IQ Unified Manager環境で、SVM、LUN、またはファイル共有のアクセスエンドポイントを表示、作成、変更、および削除できます。

アクセス エンドポイントの表示

以下の方法を使用すると、Unified Manager環境内のアクセスエンドポイントの一覧を表示できます。特定のSVM、LUN、またはファイル共有のアクセスエンドポイントのリストを照会するには、そのSVM、LUN、またはファイル共有の一意の識別子を入力する必要があります。固有のアクセスエンドポイントキーを入力することで、特定のアクセスエンドポイントの詳細を取得することもできます。

カテゴリ	**HTTP**動詞	パス

storage-provider	GET	`/storage-provider/access-endpoints`
		
		`/storage-provider/access-endpoints/{key}`

アクセス エンドポイントの追加

カスタムアクセスエンドポイントを作成し、必要なプロパティを割り当てることができます。作成するアクセスエンドポイントの詳細を入力パラメータとして入力する必要があります。この API、System Manager、または ONTAP CLI を使用して、各ノードにアクセスエンドポイントを作成できます。アクセスエンドポイントの作成には、IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの両方がサポートされています。

LUNとファイル共有をプロビジョニングするためには、SVMにノードあたりの最小アクセス エンドポイント数を設定する必要があります。SVMには、ノードごとに少なくとも2つのアクセス エンドポイントを設定する必要があります。1つはCIFSプロトコルおよび/またはNFSプロトコルをサポートし、もう1つはiSCSIプロトコルまたはFCPプロトコルをサポートします。

カテゴリ	**HTTP**動詞	パス
storage-provider	POST	`/storage-provider/access-endpoints`

アクセス エンドポイントの削除

特定のアクセス エンドポイントを削除するには、次のメソッドを使用します。特定のアクセス エンドポイントを削除するには、入力パラメータとしてアクセス エンドポイント キーを指定する必要があります。

カテゴリ	**HTTP**動詞	パス
storage-provider	DELETE	`/storage-provider/access-endpoints/{key}`

アクセス エンドポイントの変更

アクセス エンドポイントを変更し、そのプロパティを更新するには、次のメソッドを使用します。特定のアクセス エンドポイントを変更するには、アクセス エンドポイント キーを指定する必要があります。また、更新するプロパティとその値を入力する必要があります。

カテゴリ	HTTP動詞	パス
storage-provider	PATCH	`/storage-provider/access-endpoints/{key}`

Active IQ Unified Manager で API を使用して Active Directory マッピングを管理する

ここに記載されたAPIを使用して、SVM上のCIFS共有のプロビジョニングに必要なSVMのActive Directoryマッピングを管理できます。ONTAPでSVMをマッピングするには、Active Directoryマッピングを設定する必要があります。

Active Directoryマッピングの表示

SVMのActive Directoryマッピングの設定の詳細を表示するには、次のメソッドを使用します。SVMのActive Directoryマッピングを表示するには、SVMキーを入力する必要があります。特定のマッピングの詳細を照会するには、マッピング キーを入力する必要があります。

カテゴリ	HTTP動詞	パス

storage-provider	GET	`/storage-provider/active-directories-mappings`
		
		`/storage-provider/active-directories-mappings/{key}`

Active Directoryマッピングの追加

SVMにActive Directoryマッピングを作成するには、次のメソッドを使用します。マッピングの詳細を入力パラメータとして指定する必要があります。

カテゴリ	HTTP動詞	パス
storage-provider	POST	`/storage-provider/active-directories-mappings`

Active IQ Unified Manager でAPIを使用してファイル共有を管理する

`/storage-provider/file-shares` APIを使用して、データセンター環境内のCIFSおよびNFSファイル共有ボリュームを表示、追加、変更、削除できます。

ファイル共有ボリュームをプロビジョニングする前に、SVMが作成済みで、サポートされるプロトコルでプロビジョニングされていることを確認してください。プロビジョニング時にパフォーマンス サービス レベル（PSL）またはストレージ効率化ポリシー（SEP）を割り当てる場合は、ファイル共有を作成する前にPSLまたはSEPを作成する必要があります。

ファイル共有の表示

Unified Manager環境で使用可能なファイル共有ボリュームを表示するには、次のメソッドを使用します。ONTAP クラスターをデータソースとして Active IQ Unified Manager に追加すると、それらのクラスターのストレージワークロードが自動的に Unified Manager インスタンスに追加されます。このAPIは、Unified Managerインスタンスに自動および手動で追加されたファイル共有を取得します。特定のファイル共有の詳細を表示するには、ファイル共有キーを指定してこのAPIを実行します。

カテゴリ	**HTTP**動詞	パス

storage-provider	GET	`/storage-provider/file-shares`
		
		`/storage-provider/file-shares/{key}`

ファイル共有の追加

以下の方法を使用して、SVMにCIFSおよびNFSファイル共有を追加できます。作成するファイル共有の詳細を入力パラメータとして入力する必要があります。このAPIを使用してFlexGroupボリュームを追加することはできません。

カテゴリ	**HTTP**動詞	パス
storage-provider	POST	`/storage-provider/file-shares`

アクセス制御リスト（ACL）パラメータまたはエクスポート ポリシー パラメータのどちらを指定するかに応じて、CIFS共有またはNFSファイル共有が作成されます。ACLパラメータの値を指定しない場合、CIFS共有は作成されず、デフォルトでNFS共有が作成され、すべてのアクセスが提供されます。

データ保護ボリュームの作成：ファイル共有を SVM に追加すると、マウントされるボリュームのタイプはデフォルトで `rw`（読み取り/書き込み）になります。データ保護（DP）ボリュームを作成するには、 `type`パラメーターの値として `dp`を指定します。

ファイル共有の削除

特定のファイル共有を削除するには、次のメソッドを使用します。特定のファイル共有を削除するには、入力パラメータとしてファイル共有キーを指定する必要があります。

カテゴリ	**HTTP**動詞	パス
storage-provider	DELETE	`/storage-provider/file-shares/{key}`

ファイル共有の変更

ファイル共有を変更し、そのプロパティを更新するには、次のメソッドを使用します。

特定のファイル共有を変更するには、ファイル共有キーを指定する必要があります。また、更新するプロパテ

ィとその値を入力する必要があります。

このAPIの1回の呼び出しで更新できるプロパティは1つだけです。複数更新する場合は、このAPIを繰り返し実行する必要があります。

カテゴリ	HTTP動詞	パス
storage-provider	PATCH	`/storage-provider/file-shares/{key}`

Active IQ Unified Manager でAPIを使用してLUNを管理する

`/storage-provider/luns` APIを使用して、データセンター環境内のLUNを表示、追加、変更、および削除できます。

LUNをプロビジョニングする前に、SVMが作成され、サポートされるプロトコルでプロビジョニングされていることを確認してください。プロビジョニング時にパフォーマンス サービス レベル（PSL）またはストレージ効率化ポリシー（SEP）を割り当てる場合は、LUNを作成する前にPSLまたはSEPを作成する必要があります。

LUNの表示

Unified Manager環境のLUNを表示するには、次のメソッドを使用します。ONTAP クラスターをデータソースとして Active IQ Unified Manager に追加すると、それらのクラスターのストレージワークロードが自動的に Unified Manager インスタンスに追加されます。このAPIは、Unified Managerインスタンスに自動および手動で追加されたすべてのLUNを取得します。特定のLUNの詳細を表示するには、LUNキーを指定してこのAPIを実行します。

カテゴリ	HTTP動詞	パス

storage-provider	GET	`/storage-provider/luns`
		
		`/storage-provider/luns/{key}`

LUNの追加

SVMにLUNを追加するには、次のメソッドを使用します。

カテゴリ	HTTP動詞	パス
storage-provider	POST	`/storage-provider/luns`

cURL要求で、入力にオプションのパラメータvolume_name_tagの値を指定すると、LUNの作成でボリュームの名前を指定する際にその値が使用されます。このタグにより、ボリュームを簡単に検索できるようになります。リクエストにボリュームキーを指定した場合、タグ付けはスキップされます。

LUNの削除

特定のLUNを削除するには、次のメソッドを使用します。特定のLUNを削除するには、LUNキーを指定する必要があります。

ONTAP でボリュームを作成し、そのボリュームで Unified Manager を介して LUN をプロビジョニングした場合、この API を使用してすべての LUN を削除すると、ボリュームも ONTAP クラスタから削除されます。

カテゴリ	HTTP動詞	パス
storage-provider	DELETE	`/storage-provider/luns/{key}`

LUNの変更

以下の方法を使用して、LUNを変更し、そのプロパティを更新できます。特定のLUNを変更するには、LUNキーを指定する必要があります。更新したいLUNプロパティとその値も入力する必要があります。このAPIを使用してLUNアレイを更新する場合は、「`Recommendations for using the APIs`」に記載されている推奨事項を確認してください。

このAPIの1回の呼び出しで更新できるプロパティは1つだけです。複数更新する場合は、このAPIを繰り返し実行する必要があります。

カテゴリ	HTTP動詞	パス
storage-provider	PATCH	`/storage-provider/luns/{key}`

Active IQ Unified Manager で API を使用してパフォーマンスサービスレベルを管理する

Active IQ Unified Manager のストレージプロバイダー API を使用して、パフォーマンス サービスレベルを表示、作成、変更、および削除できます。

パフォーマンス サービス レベルの表示

ストレージ ワークロードに割り当てる際にパフォーマンス サービス レベルを表示するには、次のメソッドを使用します。このAPIは、システム定義およびユーザ作成のパフォーマンス サービス レベルをすべて表示し、すべてのパフォーマンス サービス レベルの属性を取得します。特定のパフォーマンス サービス レベルを照会する場合は、パフォーマンス サービス レベルの一意のIDを入力して詳細を取得する必要があります。

カテゴリ	**HTTP**動詞	パス

storage-provider	GET	`/storage-provider/performance-service-levels`
		
		`/storage-provider/performance-service-levels/{key}`

パフォーマンス サービス レベルの追加

システム定義のパフォーマンス サービス レベルが、ストレージ ワークロードに必要なサービス レベル目標（SLO）を満たしていない場合は、次のメソッドでカスタム パフォーマンス サービス レベルを作成し、ストレージ ワークロードに割り当てることができます。作成するパフォーマンス サービス レベルの詳細を入力します。IOPSプロパティには、有効な値の範囲を入力してください。

カテゴリ	**HTTP**動詞	パス
storage-provider	POST	`/storage-provider/performance-service-levels`

パフォーマンス サービス レベルの削除

特定のパフォーマンス サービス レベルを削除するには、次のメソッドを使用します。ワークロードに割り当てられている場合、または他に使用可能なパフォーマンス サービス レベルがない場合、そのパフォーマンス サービス レベルは削除できません。特定のパフォーマンス サービス レベルを削除するには、パフォーマンス サービス レベルの一意のIDを入力パラメータとして指定する必要があります。

カテゴリ	**HTTP**動詞	パス
storage-provider	DELETE	`/storage-provider/performance-service-levels/{key}`

パフォーマンス サービス レベルの変更

パフォーマンス サービス レベルを変更し、そのプロパティを更新するには、次のメソッドを使用します。システム定義のパフォーマンス サービス レベル、またはワークロードに割り当てられているパフォーマンス サービス レベルは変更できません。特定のパフォーマンス サービス レベルを変更するには、その一意のIDを指定する必要があります。また、更新するIOPSプロパティと有効な値も入力する必要があります。

カテゴリ	**HTTP**動詞	パス
storage-provider	PATCH	`/storage-provider/performance-service-levels/{key}`

パフォーマンスサービスレベルに基づいたアグリゲートの機能を表示する

パフォーマンス サービス レベルに基づいてアグリゲート機能を照会するには、次のメソッドを使用します。この API は、データセンターで使用可能なアグリゲートのリストを返し、それらのアグリゲートでサポート可能なパフォーマンスサービスレベルに関する機能を示します。ボリューム上でワークロードをプロビジョニングする際に、アグリゲートが特定のパフォーマンスサービスレベルをサポートする能力を確認し、その能力に基づいてワークロードをプロビジョニングできます。アグリゲートを指定できるのは、API を使用してワークロードをプロビジョニングする場合に限られます。この機能は、Unified Manager の Web UI では利用できません。

カテゴリ	**HTTP**動詞	パス

storage-provider	GET	`/storage-provider/aggregate-capabilities`
		
		`/storage-provider/aggregate-capabilities/{key}`

Active IQ Unified Manager で API を使用してストレージ効率化ポリシーを管理する

ストレージ プロバイダAPIを使用して、ストレージ効率化ポリシーを表示、作成、変更、および削除できます。

次の点に注意してください。

- Unified Managerでワークロードを作成する際に、ストレージ効率ポリシーを割り当てることは必須ではありません。
- ポリシーが割り当てられたあとで、ワークロードからストレージ効率化ポリシーの割り当てを解除することはできません。
- ワークロードに ONTAP ボリュームのストレージ設定（重複排除や圧縮など）が指定されている場合、それらの設定は、Unified Manager にストレージワークロードを追加する際に適用するストレージ効率ポリシーで指定された設定によって上書きされることがあります。

ストレージ効率化ポリシーの表示

ストレージ ワークロードに割り当てる前にストレージ効率化ポリシーを表示するには、次のメソッドを使用します。このAPIは、システム定義およびユーザ作成のすべてのストレージ効率化ポリシーを表示し、すべてのストレージ効率化ポリシーの属性を取得します。特定のストレージ効率化ポリシーを照会するには、ポリシーの一意のIDを入力して詳細を取得する必要があります。

カテゴリ	**HTTP**動詞	パス

storage-provider	GET	`/storage-provider/storage-efficiency-policies`
		
		`/storage-provider/storage-efficiency-policies/{key}`

ストレージ効率化ポリシーの追加

システム定義のポリシーがストレージ ワークロードのプロビジョニング要件を満たしていない場合は、次のメソッドでカスタムのストレージ効率化ポリシーを作成し、ストレージ ワークロードに割り当てることができます。作成するストレージ効率化ポリシーの詳細を入力パラメータとして指定します。

カテゴリ	**HTTP**動詞	パス
storage-provider	POST	`/storage-provider/storage-efficiency-policies`

ストレージ効率化ポリシーの削除

特定のストレージ効率化ポリシーを削除するには、次のメソッドを使用します。ワークロードに割り当てられている場合、または他に使用可能なストレージ効率化ポリシーがない場合、そのストレージ効率化ポリシーは削除できません。特定のストレージ効率化ポリシーを削除するには、ストレージ効率化ポリシーの一意のIDを入力パラメータとして指定する必要があります。

カテゴリ	**HTTP**動詞	パス
storage-provider	DELETE	`/storage-provider/storage-efficiency-policies/{key}`

ストレージ効率化ポリシーの変更

ストレージ効率化ポリシーを変更し、そのプロパティを更新するには、次のメソッドを使用します。システム定義のストレージ効率化ポリシー、またはワークロードに割り当てられているストレージ効率化ポリシーは変更できません。特定のストレージ効率化ポリシーを変更するには、ストレージ効率化ポリシーの一意のIDを指定する必要があります。また、更新するプロパティとその値を指定する必要があります。

カテゴリ	**HTTP**動詞	パス
storage-provider	PATCH	`/storage-provider/storage-efficiency-policies/{key}`

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、http://www.netapp.com/TMに記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。